

米国 スピード調整も依然高い水準(14年9月ISM製造業景気指数)

発表日：2014年10月1日（水）

～米製造業は堅調さを維持、他国との製造業活動格差拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
13/10	56.6	61.3	60.8	54.3	52.5	54.1	51.5	55.5	57.0	55.5
13/11	57.0	63.4	62.4	55.4	50.5	53.3	54.0	52.5	59.5	55.0
13/12	56.5	64.4	61.7	55.8	47.0	53.7	51.5	53.5	55.0	55.0
14/01	51.3	51.2	54.8	52.3	44.0	54.3	48.0	60.5	54.5	53.5
14/02	53.2	54.5	48.2	52.3	52.5	58.5	52.0	60.0	53.5	53.5
14/03	53.7	55.1	55.9	51.1	52.5	54.0	57.5	59.0	55.5	54.5
14/04	54.9	55.1	55.7	54.7	53.0	55.9	55.5	56.5	57.0	58.0
14/05	55.4	56.9	61.0	52.8	53.0	53.2	52.5	60.0	56.5	54.5
14/06	55.3	58.9	60.0	52.8	53.0	51.9	48.0	58.0	54.5	57.0
14/07	57.1	63.4	61.2	58.2	48.5	54.1	49.5	59.5	53.0	52.0
14/08	59.0	66.7	64.5	58.1	52.0	53.9	52.5	58.0	55.0	56.0
14/09	56.6	60.0	64.6	54.6	51.5	52.2	47.0	59.5	53.5	53.0

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

ISM製造業景気指数 は56.6と前月比2.4% ポイント低下

14年9月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、56.6と前月比▲2.4%ポイント低下し市場予想を下回った(市場予想中央値58.5、当社予想58.2)。米製造業部門の減速を示唆しているが、先月指摘した世界景気の鈍さやこれまでの高い伸びの反動等による水準調整である。また、新規受注、生産が高い水準を維持している。さらに、製造業部門は全18業種中15業種で拡大しており、広がりを持った拡大となっている。以上から、米製造業は堅調さを維持していると判断され、他国との製造業活動格差は拡大したままである。

構成項目では生産が上昇した一方で、新規受注、雇用、在庫、入荷遅延が低下した。重要項目である生産が上昇しているうえ、新規受注が高い水準を維持しているほか、在庫に過剰感が乏しいこと等から、製造業部門が堅調さを維持する可能性が高いことを示している。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、生産(前月比+0.02%ポイント)が押し上げ寄与となった一方、新規受注(前月比▲1.34%ポイント)、雇用(前月比▲0.70%ポイント)、入荷遅延(前月比▲0.34%ポイント)、在庫(前月比▲0.1%ポイント)、が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲2.4%ポイント低下した。

活動の拡大した業種は 15業種と減少も、広がり を伴った拡大継続

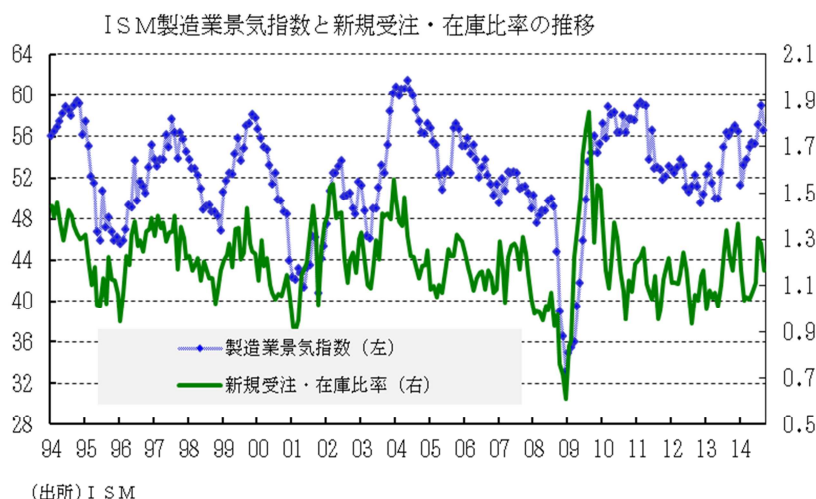
活動の拡大した業種数は、全18業種中15業種(前月17業種)と、多くの業種で拡大しており、広がりを持った業況の改善となっている。拡大した業種(拡大を続けた業種には下線)は、木材製品、一次金属、アパレル・皮革・同製品、非鉄、家具・同関連製品、加工金属、その他製造業、食品・飲料・タバコ、印刷・同関連支援、コンピューター・

電子機器、紙製品、化学製品、輸送機械、石油・石炭、繊維。一方、縮小した業種は、一般機械、プラスチック・ゴム、電気装置・同機器・同部品と3業種（前月1業種）にとどまった。

（注）下線は拡大を続けた業種

今後のISM製造業景気指数は製造業部門の堅調さを示す水準で推移する見込み

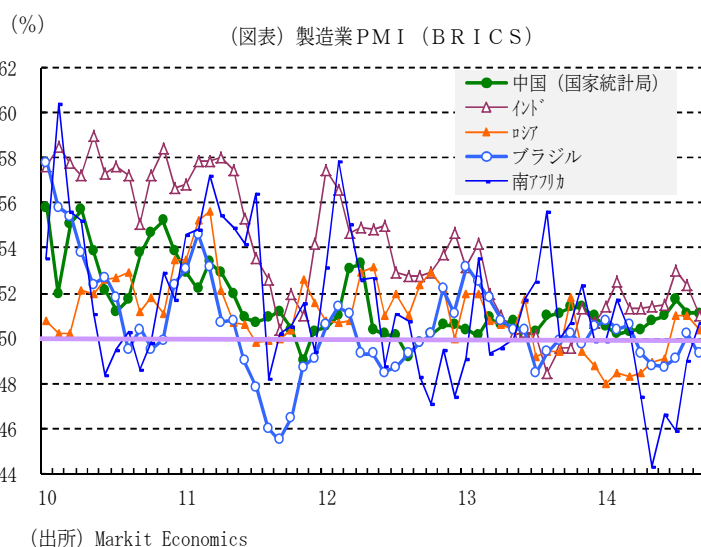
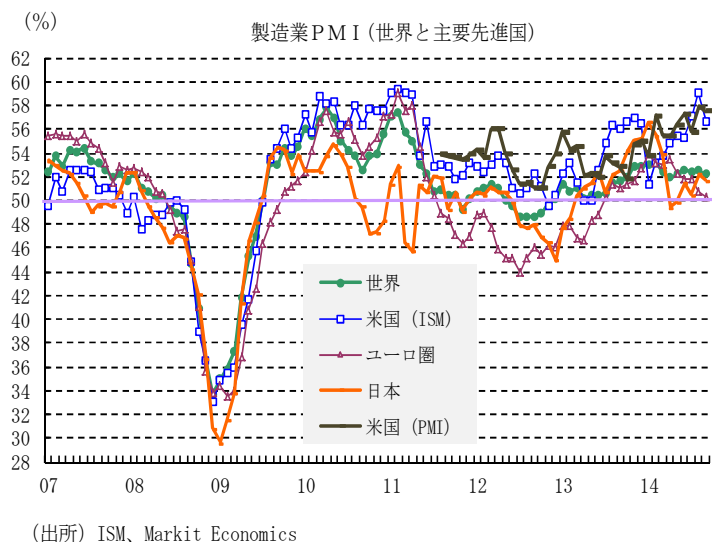
今後に関しては、ISM製造業景気指数は、世界景気の鈍さの影響を受け、小幅水準を切り下げるものの、個人消費を中心に緩やかな成長を維持する国内需要などに下支えされ、製造業部門の堅調さを示す水準で推移する公算が大きい。



9月の世界製造業PMIは小幅低下。22ヵ月連続で50を上回ったものの、水準は高くない

9月の世界製造業PMIは52.2（前月52.5）と前月から低下したが、22ヵ月連続で50を上回った。製造業部門の拡大傾向を示しているものの、新興国の弱さを主因に水準は低いままである。中国を含むBRICS諸国は持ち直しているが、以前と比べて勢いは弱い状態。

50を下回った国は、豪州、韓国、ブラジル、ノルウェー、ポーランドなど。一方、50を上回った国は、米国、日本、ユーロ圏、英国、カナダ、ロシア、中国（国有企業中心）、中国（中小企業中心）、インド、南アフリカ、インドネシア、スウェーデン、デンマーク、ハンガリー、トルコ、台湾、ベトナム、メキシコなど。ただし、中国、インドなどの水準は過去と比較して依然低い水準。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

輸出の拡大を示唆

上述のような環境のもとで、輸出受注D Iは、9月に53.5と前月比▲1.5%ポイント低下したが、拡大縮小の分岐点である50を22ヵ月連続で上回った。世界的な景気拡大の動き等を背景に、輸出の増加が示唆されている。ただし、世界的な製造業活動の拡大モメンタムは弱く、輸出の伸びは抑制されよう。

各国の米国向け輸出は増加ペース鈍化も

一方、輸入D Iは、8月に53.0と前月比▲3.0%ポイント低下した。輸入は米国内需の拡大持続を背景に増加傾向を続けるものの、4－6月期に高い伸びとなった影響もあり、7－9月期に小幅鈍化することが示されている。すなわち、先進国、新興国の米国向け輸出の減速を示唆しており、世界経済の拡大モメンタムが鈍化する可能性がある。

雇用D Iは製造業雇用の増加ペースの小幅鈍化を示唆

雇用D Iは、9月に54.6と前月比▲3.5%ポイント低下し、製造業部門雇用者数（3ヵ月移動平均）の増加ペースの小幅鈍化を示唆している。今後、激しい価格競争によるコスト削減圧力を背景に、製造業部門での雇用の回復ペースは鈍い状況が続く見込み。

仕入価格D Iは川中でのインフレ圧力が限定的であることを示す

仕入価格D Iは、エネルギーなどの価格上昇によって、9月に59.5と前月比＋1.5%ポイント上昇した。50を上回っているものの、インフレ統計との関係でみると水準が低く、川中でのインフレ圧力は限定的であることを示している。

